



平和とくらしを守る北九州市民の会

〒803-0817 小倉北区田町 13-21 田町ビル 3 F
Tel 093-592-5000 FAX 093-571-4346

北九州市民の会

検索



WEB : <http://siminnokai.com>
e-mail : koe@siminnokai.com

「さよなら原発」と「平和ネット」 小倉駅前で連続街宣

今日（11月19日）の夕方は、まず「さよなら原発北九州」のグループが街宣をやって、その後は我々「平和をあきらめない北九州ネット」が同じ街宣をやるという、非常に濃厚な小倉駅前でした。



しかもっ！（加藤風 笑）89年ぶりという「ほぼ皆既」の部分月食という超豪華版！僕らのリレートークでは、やっぱり「市民と野党共闘」に確信を深めた、あるいは自信を持とう！という話を中心ですよ。

それに改憲の動きが急だけど、それを押し返そうという気迫の訴えもありました。



総選挙の結果に対しての「がっかり感」は、もう完全に通過し、みんなの気持ちは次なるステージに向かっていきます。で、スピーチの最後のメは僕だったんですけど、まわりのビルに囲まれて見えなかった「月食」が、ステーションビルの斜め上に見えてきたんです。

誰かが「あ、見えた」と言ったと同時に、その周辺のみなさんは月の方に向いてしまっ、そのうちだんだん人が集まってしまっ、僕は演説どころじゃなくなっちゃったという・・・(笑)

ま、いいじゃないですか。89年ぶりだし、今回は65年後らしいので。その65年後の日本も含めた世界では「戦争」という言葉がきつと「死語」となっていることでしょう。そんなことを願っています。

（竹内俊一さんFBより）

「自衛官等募集に関する対象者情報提供」 を中止せよ！

北九州市は自衛官募集に係る対象者情報の提供方法について、防衛省及び総務省の通知により、来年度から紙媒体（あて名シール）での提供に変更すると、11月10日に公表しました。

これを受けて、本日（11月29日）、「平和とくらしを守る北九州市民の会」に結集する諸団体が、情報提供を中止するよう、市当局に申し入れを行いました。申し入れに参加した団体は、小倉地区平和委員会、新日本婦人の会北九州7支部、北九州子どもと教育のために手をつなぐ会、生活と健康を守る会（門司・八幡）、北九州市地域人権運動協議会。日本共産党の藤沢市議、高瀬県議も参加。市当局は、市民文化スポーツ局市民総務部総務区政課の課長・係長が対応しました。

その後、1時間ほど、私たちの切実な中止要請を訴えました。



北橋市長宛の申し入れ書を手渡す、三輪氏事務局長

第43回福岡県人権問題研究集会 地域人権運動の大切さを確認

第43回福岡県人権問題研究集会が、11月23日（火：勤労感謝の日）、開催されました。コロナ感染対策のため、昨年のように人数を制限しての集会となりましたが、県下から会場いっぱい参加となりました。記念講演は、佐藤直樹さんをお迎えし、「世間という同調圧力と私たちの人権」について語っていただきました。私たち一人ひとりにとって、人権とは何かを見つめなおす良い機会となりました。

午後からは、社会問題分科会で映画『大コメ騒動～女性（おかか）たちのたたかい～』、人権問題分科会で学習『差別発言・差別落書きにどう対処するのか』（講師：奥山峰夫氏）がそれぞれおこなわれ、共に学び合い、地域人権運動の大切さを確認し合う一日となりました。



八幡市民会館の活用を求める連絡会（第64回） 4月の報告集会でパンフレットお披露目

11月19日（金）、上記連絡会が開催されました。参加者は9名。前回（10月8日）からの経過報告と当面する課題について確認した後、本日のメインテーマであるパンフレット作成について検討。パンフレットは20ページで、目次と執筆担当者を決定しました。パンフレット完成後、市民報告集会を4月までに開催します。

次回連絡会は12月10日（金）13：30～15：30、大谷市民センターで開催します。

北九社保協通信

報告・資料集 2021年11月号
11月20日 事務局発行

コロナ感染小康状態も困窮は続く！

「生保110番」に8件の相談。



電話の声を聞ける相談員の皆さん

11月16日（火）に2ヶ月に1度の定例開催である「生活保護110番」を実施しました。この日もマスクによる当日取材はなかったものの、地域に配布しているチラシや今回は新聞の事前告知を見ての相談がありました。やはり地道な宣伝活動の重要性を感じます。民区連関係や加盟民主団体に地域ビラ配布の協力をお願いしていますがそれ以外の地域に、社保協として独自にビラを配布しています。毎回、地域を変え今まで配布していな

い所に集中的に案内を行っています。その甲斐もあってか、今回は新たな地域からの相談が多数、寄せられました。特徴的な相談を紹介すると「59歳。男性。2年前より失業中。職を探しているがなかなか見つからない。貯金を取り崩して生活してきたが、それも底をついてきた。社保の貸付を申し込んでいるが不承認の時間が心配。できれば生活保護は受けたくない。」との相談には「仕事が見つかるまでの一時保護受給も可能」と保護制度について丁寧に説明すると「わかりました。ダメだった時は、役所に保護申請に行きます」と理解を示されました。相談活動を続けていると、生活保護に対する誤った認識や忌避感が根強いことを実感します。制度や社会資源の正しい知識を知らせて行くことも、私たちの使命であると思います。現在、感染状況は小康状態で経済も少しずつ回復の兆しが見えますが、一方で貧困で喘ぎ苦しんでいる方々がいる事も忘れてはなりません。

「いのちまもる 緊急行動 in 北九州」に参加。

いのちと暮らしを守る社会保障の充実を訴える！

全国一斉蜂起後、ここ北九州で健和会労組、地区労連、北九社保協が呼びかけ団体となり「いのちまもる緊急行動 北九州実行委員会」を立ち上げ、11月14日（日）11時より宣伝行動を実施しました。当日は9団体から40名が参加しました。リレートークで社保協からは、この間におけるコロナ禍での相談会の取り組みやそこでの困窮に苦しむ相談事例を紹介。脆弱性があらためて明らかになった社会保障の立て直しこそ、いのちと暮らしを守る誓であることを訴えました。参加団体の各分野からも医療・保健体制強化や窓口負担増反対を訴える発言があり、最後に高瀬県議の「いのち優先、暮らしを

守る政治への転換をめざしましょう！」との力強いアピールで行動を終えました。さらに幅広い運動をすすめるべく11月25日には結成総会が予定されています。



リレートークで発言する北九社保協の岡本事務局長

反対意見相次ぐ、区域区分見直し、

市民説明会と市議会12月定例会での動き

■ 萩が丘校区の市民説明会

11月10日、萩が丘校区の市民説明会では、居住者25名の申請枠で25名が参加し、2時間5分で参加者の発言14名、70件の質問・意見がだされました。いずれも「市街化調整区域からはずしてほしい」との意見が次々にだされましたが、市は「白紙撤回は考えてない、皆様の意見を受け止めて100%というのはむずかしい」と答えました。

また、「基本方針に地域の合意形成が得られない場合は市街化区域を維持するとなっているがこれが嘘なのですか」に対して「個別ですみません」と言葉を濁しました。さらに「今回の逆線引きは法律の主旨と違うが何故か」の質問に市は「都市計画を定めた時は、そのようなことであったと思うが、国の指針で人口減少等の場所については調整区域に変更していくように明記されていまして、その方針に沿って今検討をします」と答弁しました。

「レッドゾーンやイエローゾーンを決める時に地質調査などはされているのでしょうか」の質問に市は「地質を確認しているとかの質問は、土砂災害特別区域は福岡県が所管しているので、私は知らないで答えることができない」としました。

■ 小倉北区 熊谷

11月12日に行われた、小倉北区熊谷の説明会では「今回の市民説明会を10日前に知った。今回の見直しの目的は何か、災害をなくすことか、山の地質調査はしたのか。土石流が発生する恐れがあるところなのか」「私たちの財産がどうなるのか、家を処分して、老後の費用に当てようと思っていたがそれもできなくなる」、「土地や家屋の市場価値が下がる、不動産売買がゼロになっている。子々孫々まで不良物件を負わなければならない」など、住民から「提案はやめてほしい」という立場での発言が繰り返し行われました。これに対して市当局は「反対でしたら意見書を書いていただきたい」「見直して再度提案します」と質問への真面目な回答は聞かれませんでした。

■ 門司区 永黒

門司区永黒のNさんは、11月に行われた市民説明会があったことを知りませんでした。後日、自分の家が市街化調整区域へ見直しされていることがわかり、12月2日に北九州市役所の建築都市局を訪れて説明を求めました。Nさんの宅地はバス道路に面していますが、その地域は、250mメッシュで、災害の恐れ、交通の利便性、人口減少を点数で示されていることを聞き、具体的に点数を聞いてみると、Nさんの土地の半分の左側が40点以下で右側が50数点となっており、こんな方法で決められていることに理解できないと撤回を求めました。

■ 12月市議会 本会議質

12月議会の本会議では、区域区分の見直しについて西田議員（自民の会）と高橋議員（共産党）が質問しました。

いずれも市民説明会の中で出されている住民の意見が紹介され、提案の撤回を求める質問が行われました。市は意見書の締め切りを3月末までとしていましたが、市民説明会の状況を踏まえて受付期間を柔軟に見直すとしていました。また、令和5年度の都市計画についても令和5年度にこだわらず柔軟に対応すると答弁しました。

(市民の会事務局)

区域区分見直し交流 NEWS 2号

令和3年3月末意見書締め切りを、受付期間を柔軟に見直す

■ 12月議会の本会議では、区域区分の見直しについて西田議員（自民の会）と高橋議員（共産党）が質問しました。いずれも市民説明会の中で出されている住民の意見が紹介され、提案の撤回を求める質問が行われました。西田議員は11月19日の小倉南区葛原の説明会に参加して、参加した40名の参加者の反応は、ほとんどが反対だと思った。出された意見は「長年にわたり市街化区域の多額の税金を納めてきた。移転しろと言うなら金銭の補償をしろ」「懸命に住宅ローンを支払いながら資産を守ってきた。価格を下げるなら金銭の補償をしろ」など紹介しました。西田議員は北九州市の現状と将来を考えると区域区分の見直しは、総論で反対には慎重な態度であるが、しかし、この地域では区域区分の見直しを進めるのは不可能と考える」と述べました。

高橋議員は「評価額が2800万円の土地を800万円で売ることになった」「新聞報道で既に風評被害が出ている」「土地を担保に銀行とローンを組めなくなる」「転居に対する補償はないのか」等、多くの不安と不満の声が上がっているとし、資産の減額・償還は否定できない。意見は修正案に賛成するとし、補償の必要がないのではと述べた。大きな失敗であり、男み足ではないかと指摘しました。

市は意見書の締め切りを3月末までとしていましたが、市民説明会の状況を踏まえて受付期間を柔軟に見直すとしていました。また、令和5年度の都市計画についても令和5年度にこだわらず柔軟に対応すると答弁しました。

地域での説明会のあとに地権者への説明会があります。個別に郵送されます。意見書は郵送やFAX等で必ず返信しましょう。

市民説明会に参加して、疑問や意見をドシドシ出しま

今後の説明会日程

問い合わせ先
建築都市局都市計画 093-582-2451
※会場によっては事前予約が必要です

香松	21/12/20	月	19:00	小石公民館
門司	21/12/21	火	18:30	東郷市民センター
門司	21/12/23	木	18:30	東郷市民センター
門司	21/12/27	月	休	東郷市民センター
門司	22/1/7	金	15:00	小森江東公民館
門司	22/1/11	火	15:00	小倉江東市民センター
門司	22/1/14	金	18:30	丸山市民センター
門司	22/1/15	土	18:30	小倉江東市民センター
門司	22/1/17	月	14:00	丸山公民館
香松	22/1/18	火	19:00	吉前公民館
香松	22/1/18	火	18:30	丸山公民館
香松	22/1/19	水	19:00	第22区公民館
門司	22/1/20	木	19:00	小倉江東市民センター
香松	22/1/20	木	19:00	第22区公民館
門司	22/1/24	月	19:00	小倉江東市民センター
香松	22/1/24	月	19:00	吉前公民館

◎意見書は必ず提出しましょう

市主催の説明会会場配布される資料の中に「意見書」が入っています。それぞれの意見を書いて必ず提出しましょう。市は説明会で意見が出なければ「市の説明を理解してもらった」と勝手に判断します。そうならないよう、意見書にきっちり書いて意思を表明しましょう。

地域での説明会のあとに地権者への説明会があります。個別に郵送されます。意見書は郵送やFAX等で必ず返信しましょう。

地区労連が第80回評議員会
雇止め闘争への支援を訴え

12月10日(金)、北九州地区労連は、第80回評議員会を開催。評議員・役員合わせて39人が参加。評議員会は、安達副議長の開会あいさつで始まり、議長団選出、永富議長挨拶、資格審査・議事運営委員会報告の後、議事に入りました。



2021年秋季年末闘争経過報告、第1・2四半期収支報告の後、2022年春闘方針骨子案が提案されました。高瀬県会議員が激励の挨拶と県議会報告。健和会労組荒牧評議員から、「2021年春闘から秋季年末闘争での健和会労組の取り組み、いのちをまもる緊急行動を成功させ、新しいいのちをまもる署名の取り組みに多くの方のご協力を!」と発言。北九州地域ユニオンの増田評議員は、「北九州市の指定管理者である北九州埠頭から理不尽な雇止めを通告され、民事裁判で地位確認など請求事件を争っている闘いへの支援の訴え」の発言がありました。堀田事務局長からまとめの発言の後、永吉副議長の閉会あいさつ、永富議長のサイレント団結がんばろうで閉会しました。

(堀田和夫氏FBより)

日本共産党北九州市議団主催講演会
「どうする気候危機持続可能な道はあるのか、
明日香壽川・東北大学教授が分かりやすく解説

日本共産党北九州市議団主催の講演会「どうする気候危機 持続可能な道はあるのか」が12月19日午後、市立商工貿易会館(小倉北区)であり、明日香壽川・東北大学教授が「世界と日本のエネルギー・温暖化政策の現状と課題」と題して講演しました。120人を超える市民がかけつけました。



明日香教授は先月、英国グラスゴーで開かれた国連気候変動枠組条約第26回締約国会議(COP26)の成果を解説し、気温上昇目標の見直しや石炭火力発電の段階的削減の取り組み、気候基金などの現状、課題について言及しました。

また明日香教授も参加する「未来のためのエネルギー転換研究グループ」が取りまとめたレポート2030」についても説明し、再生エネと省エネへのエネルギー転換で、年間254万人の雇用が創出されることなど、気候危機回避と地域発展が同時に実現できると訴えました。

質疑応答で会場からの「気候危機に対して、市民に出来ることはあるのか」との問いに、明日香教授は「建物の断熱化、再エネの電力会社に変える、日頃の交通手段など、多くの取り組みができる」とアドバイスしました。

日中友好新聞福岡県連版

小沢和秋さんを偲ぶ会「こ



89歳で亡くなった小沢和秋さん(元代議士・県議)を偲ぶ会が11月4日、中間市のハーモニーホールで235人の参加で執り行われました。

生前の御活躍ぶり、お人柄を示したスライドでの小沢さんの紹介、たくさんの方々思い出と学んだことを語られました。愛娘のさつきさん(司法書士)からの、遺した遺族代表のご挨拶がありました。

東大を出て八幡製鉄に就職されたばかりの小沢さんが、賃上げを求める労組の屋外決起集会の際、少雨を理由に幹部が取りやめようとしたとき、壇上に駆け上がり、予定通りの開催を訴え、満場の喝さいを浴びて、集会は開催されたという有名なエピソードも紹介されました。当時、全国に名だたる大労組での、時代状況を物語る武勇伝です。以来、現場労働者の衆望を担っての、若くしての労組執行委員に当選、その後の県議、代議士と目覚ましい活躍が続きます。

小沢さんの思い出集のなか、協会大田宣也副理事長は「最も記憶にあるのは1960年代初の『中国物産展』の頃です。物産展は東京・名古屋・福岡の3カ所で開催されました。この物産展が『文化大革命』の中国の大国主義干渉の重要で大きな糸口になったのです。福岡でも小沢さんなどを中心に干渉許さずの闘いが厳しく展開されました」と寄せられました。協会北九州協議会の宮浦恵さんはご挨拶の後、二胡奏者の中村博光さんを紹介。中村さんの二胡演奏は小沢さんの思い出と共に心に響きました。

国会議員勇退後、2004年9月に出版された「この道ひとすじ」には、労働者の要求実現と美しい社会をめざして、明日の日本のためにみずみずしい情熱と不屈の闘志が込められています。

小沢和秋さんを偲ぶ会

「この道ひとすじ」